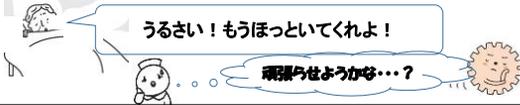


Case2

高次脳機能障害？性格？
理解が乏しい患者に対する離床をどうすべきか？

History 74歳 男性
自宅で転倒し第4腰椎の圧迫骨折で入院。
2か月の入院後、退院し施設へ。
離床開始したいが指示が入らず拒否をする。
暴力行為もあり看護ケアも十分にできず、困り果てている。
家族の希望：「あの人に任せてます。あまり無理しないでください。」

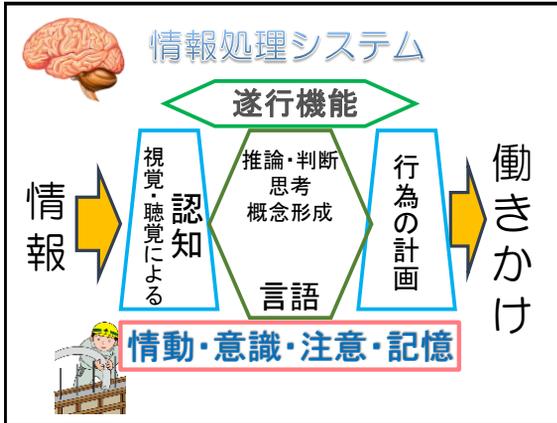


離床でせん妄が誘発される可能性

不適切な対応とその結果

- × 無理に止める……………欲求が阻止されるので抵抗する
- × 現実を知らせて説得する……………現実が認識できないので混乱する
- × 建物に鍵をかける……………閉じこめられたと思い、抵抗する
- × 危険なので拘束する……………強い恐怖感を抱く

資料出所：加藤伸司著「律儀」。「福祉キーワードシリーズ 痴呆ケア」p.25、中央法規、2003年



高次脳機能障害

認知症

認知の障害全般
認知とは
記憶・注意・行動
言語・感情

せん妄や精神疾患によらない認知行動の障害
によって、日常生活に
困難を来たした状態

個々の症候

個々の症候では
説明できない

石倉純夫 認知症、せん妄、外傷性脳損傷による高次脳機能障害。
高次脳機能障害、第2版、東京医歯薬出版 参考

せん妄

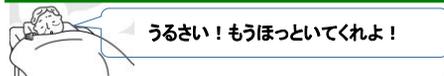
認知症

注意障害を伴った軽い意識障害
を基盤とする症候群で落ち着き
のなさ暴言、暴力などの症状

	せん妄	認知症
時期	数時間や数日前など比較的はっきり	ゆっくりと発症
症状	一定した表現がない	物忘れの自覚があるが、生活に支障が来たしている自覚はない
注意力	日内変動がある	日内変動はない
経過	一過性	持続的

History

74歳 男性
自宅で転倒し第4腰椎の圧迫骨折で入院。
2か月の入院後、退院し施設へ。
離床開始したいが指示が入らず拒否をする。
暴力行為もあり看護ケアも十分にできず、困り果てている。
家族の希望：「あの人に任せてます。あまり無理しないでください。」



本人も家族も拒否
自己決定権の尊重



理解を得るためのヒント

- ・否定せずに「受け入れる」こと
- ・話をよく聞く
(同じ話しでも真剣に聞く)
- ・認知症の方のペースに合わせる
- ・納得できるように話す
- ・声掛けを多くする
- ・不安にさせない



理解を得るためのヒント②

・「どうしますか?」「これにしましょう」ではなく、
「AとB用意しましたが、どちらにしましょうか」と
選択をあおぐ

みんなで統一

・ナースコールに対しありがとうという

・文章で説明するのではなく、
単語でジェスチャーで繰り返し理解を促す

